

## 2020 年度 小委員会活動成果報告

(2021 年 2 月 15 日作成)

|                              |   |   |                                |
|------------------------------|---|---|--------------------------------|
| 小委員会名                        | 歴史的建築データベース小委員会   |   | 主 査 名：山崎 幹泰<br>就任年月：2019 年 4 月 |
| 所属本委員会<br>(所属運営委員会)          | 建築歴史・意匠委員会  |   | 委員長名：西澤 泰彦<br>主 査 名：           |
| 設 置 期 間                      | 2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月   |   |                                |
| 設 置 目 的<br>各年度活動計画<br>(箇条書き) | <p>歴史的建築に関する各種情報の集約・管理。<br/>日本建築学会編歴史的建築総目録データベースの管理・運営。<br/>歴史的建築総目録データベースを媒体とした学会・行政・市民の協働。<br/>初年度：画像情報、地図情報、各種報告書データ、学術論文リンクをはるなどコンテンツのさらなる充実化を行うための、DB システム設計の改善とデータの登載を行っていく。また、DB の活用を学術調査、被災調査、地域活動などに広げるべく、新規に学術・被災調査フォーマットをシステムに組み込むための検討を行う。</p> <p>2 年度：前年度の作業を継続すると共に、海外の建築関連 DB・アーカイブズの調査を実施し、DB システム設計へ応用していく。運用サーバーを Amazon Web Service に移行し、建築学会の管轄下に置く。</p> <p>3 年度：有事・平常時の建物調査台帳としての情報提供方策を検討する。</p> <p>4 年度：学会大会研究協議会にて、歴史的建築総目録 DB の利用と活用にかかわる研究集会を実施する。</p> |   |                                |
| 委員構成<br>(委員名 (所属))           | <p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：山崎幹泰 (金沢工業大学)<br/>幹事：玉田浩之 (大手前大学)<br/>委員：池上重康 (北海道大学)、石上隆達 (第一インターネットサービス)、稲垣智也 (文化庁)、木方十根 (鹿児島大学)、清水隆宏 (岐阜高専)、大宮司勝弘 (大宮司建築設計事務所)、永井康雄 (山形大学)、二村悟 (工学院大学)、真木利江 (広島女学院大学)、水野僚子 (日本大学)、三宅拓也 (京都工芸繊維大学)、柳沢伸也 (やなぎさわ建築設計室)、山田由香里 (長崎総合科学大学)</p>  |   |                                |
| 設置 WG<br>(WG 名：目的)           |   |   |                                |
| 2020 年度予算                    | 170,000 円   | ホームページ公開の有無：有<br>委員会 HP アドレス： <a href="https://glohb.aij.or.jp">https://glohb.aij.or.jp</a> |                                |

| 項 目   | 自己評価  |
|---|---|
| 委員会開催数  | 2 回 (年度内計画を含む)  |
| 刊行物<br>(シンポジウム資料等は<br>除く)                     | なし  |
| 講習会   | なし  |
| 催し物<br>(シンポジウム・セミナー等)<br>*能力開発支援事業委員会<br>承認企画 | なし  |
| 大会研究集会  | <del>1. (名称)</del> 参加者数 <del>——</del> 名<br><del>—— (資料名) ——</del> |
| 対外的意見表明・パ<br>ブリックコメント等                        | なし  |

|                                       |  |
|---------------------------------------|--|
| <b>目標の達成度</b><br>(当初の活動計画と得られた成果との関係) | 1. 主に、データベースコンテンツの充実を図った<br>2. 文化庁委託「近現代建造物緊急重点調査事業」の調査の基礎台帳として活用するとともに、データベース講習会を実施した。          |
| <b>委員会活動の問題点・課題</b>                   | コロナ禍により委員会活動が停滞したため、データの搭載、データベースコンテンツの充実、DB システム設計の改善が十分に進展しなかった。オンライン会議を通して活動する体制の整備が今後の課題である。 |